

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
定期安全レビュー分科会
第2回 P S R作業会 議事要旨

日時：2004年5月10日（月） 13:30～16:30

場所：原子力学会 会議室

出席者：（敬称略）

委員 平野〈主査〉，森山〈副主査〉，佐々木〈幹事〉，池上，石崎，及川，岡野，小林，高尾，寺田，三浦，光岡，山崎，吉田 14名

常時参加者 梅津，岡島，高野，竹内，竹下，須田，橋詰，廣川，山本 9名

発言希望者 素都 1名

傍聴希望者 前田(克)，前田(洋) 2名

事務局 太田

配付資料

PSR作業会議事要旨（案）

手引き

（案）－標準の体裁

標準案の記載及び策定方針に係るコメントへの対応表（案）

P6WG1-2-5 PSRに係る原子力学会標準の骨子（案）

議事要旨：

議事に先立ち、事務局より委員14名全員が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事要旨確認

前回議事要旨について承認された。（P6WG1-2-1）

2) 人事について

素都益武氏(サイクル機構)が委員に推薦され、全員一致で承認された。また、竹内博司氏（関西電力），竹下明氏（中部電力），廣川直機氏（TEPSYS）が常時参加者として承認された。

3) 「標準作成の手引き」および「標準の体裁」について

事務局より、学会の標準委員会で定めている「標準作成手引き（P6WG1-2-2）」および「標準の体裁（P6WG1-2-3）」について説明があった。

4) 標準の骨子について

石崎委員より本標準の骨子(案)（P6WG1-2-5）について説明があった。合わせてこれまでに各委員より出されたコメントへの対応状況について対応表（案）（P6WG1-2-4）にて説明がなされ、以下の議論が行われた。

・本標準を手引き型で作成するという理由を整理すべきと考える。

→ 要求型ではなく、作成方法を幅広く例示する手引き型とすることが良いと考えるが、位置付けについては、今後作成しながら議論していくこととする。

・別紙2本文の「設備の健全性及び信頼性の維持・向上対策」に記載の「主要な設備」をどう定義づけていくかは今後議論すべき事項と考える。浜岡での配管破断事象を考えた場合には単純にPS-1，2及びMS-1，2に限定出来るものではないと考えている。

→ PSAの知見を踏まえた上で評価対象を選定するというやり方についても検討する。

・骨子としては本文，解説の記載様式は別紙2のスタイルとすることも含め了承し、当面このスタイルで作成を進めることとする。

5) 標準策定にあたっての課題について

石崎委員より本標準の骨子(案)（P6WG1-2-5）の2ページ目に記載の標準策定にあたっての課題について説明があった。合わせてこれまでに各委員より出されたコメントへの対応状況について対応表（案）（P6WG1-2-4）にて説明があった。

・課題1はPSRの目的，根拠の明確化およびPSR以外の規制と重複する事項の整理についてである。

・PSRの目的としてイギリスでは今後10年の担保的位置付けが強いようであるが、日本のPSRはどういう位置付けか。

→ 明確に位置付けられていないが、PLMでは運開30年時点で60年運転を考慮した評価を行うのと比較すると、PSRは比較的これまでの10年間を振り返る意味合いが強いようである。ただし、次のPSRを行う10年後までの担保もある程度は必要との意見があった。

- ・他の規制との重複事項については、保安検査で見られている項目との整理を作業会で行うこととする。
- ・課題2の他の民間規格等を標準で参照すべきものの選定に関連し、J E A Cについては、記載箇所を検討しながら本標準内に記載することは可能と考えるが、I A E Aセーフティーガイドについては、記載するか否かはともかく、対比して検討していきたい。
- ・課題3の知見の定義の明確化に関連し、W A N O、I N P Oの非公開情報を個別に評価することを標準に規定することは困難である。N R CのBulletinのみを対象とすることで良いか否かを議論していくことになると思う。欧州情報は非公開のものが多く対象外になると考える。P S R自体セルフアセスメント的なものであり、Bulletin以外の知見に対して事業者を対象としないでも良いということではないが、その扱いについて標準でどのように表現するかはポイントとなる。具体的には今後の審議とする。
- ・課題4の知見反映要否の考え方に関連し、コメントの趣旨は許容基準を明確化することで透明性も確保でき、行政、事業者ともに有効であると思う。
→ 評価の視点の記載を工夫することでよいのではないかな。
- ・今回提示された4つの課題については、いずれも今後のドラフティングと平行して議論していくこととする。

第3回作業会予定

スケジュール：

6月下旬または7月上旬

検討内容：

- ・他規制との重複項目の抽出
- ・標準のドラフティング作業

以上